

V おわりに

本事業を通じて私達が改めて実感したのは、様々な「違い」です。言葉の上で「違い」は「間違い」にも通じるなど、あまりよくない意味で捉えられがちです。しかし「違い」は、必ずしもマイナスに捉えるべきものではありません。

「親が変われば子どもも変わる」と言われます。たしかにそれは事実だと思えますし、親に限らず子育てに関わる人が、スキルを身につけられるようにすることも必要だとは思えます。しかしその一方で、「こうでなければいけない」「このようにあるべきだ」という既成概念が、かえって悪循環を生んでいることも少なくないように思えます。

「子育てに専念したい」という人もいれば、「子どもとの時間も大切にしながら、週に数日だけ働きたい」という人、「子育てもおろそかにはしたくないが、自身の仕事も大切にしたい」「働かなければならない」という人もいます。今回はおもに未就学児のお母さん方の話を聞きましたが、世間で「育メン」がもてはやされる中、「仕事もしたい」「せざるを得ない立場にある自分に罪の意識を感じてしまう」というお父さんの声もありました。

「家にいてばかりでは、息が詰まってしまう。たまには息抜きをしたい」という母親の声に対して、「わがままだ」とする人もいます。「昔はみんなそうやって子育てをした」という人もいますが、昔の子育て環境と今の子育て環境では孤立感に違いはないでしょうか。親が忙しく働く姿を見て、子どもが育つということもあります。

私達はまだ、子育てについて具体的な提案ができる段階には至っていません。しかし今の段階で言えることは、「良い父親・母親像、祖父母や地域の大人像」に定形はなく、「違い」も尊重されて然るべきだということです。これは子育てに限ったことではないかもしれませんが、「違い」についての理解、認識の不足、理解できているつもりで理解できていないということへの認識の不足こそが、「ずれ」を生じさせるもととなっているのではないのでしょうか。

「親が変われば子どもも変わる」が本当なら、「子どもが変われば親も変わる」ということもできるでしょう。親自身による子育てを支えながらも、より多くの人々が地域の子育てに関わりながら、子ども達を元気にすることで、親も元気にするための努力も必要なのではないのでしょうか。

今回、聞かれた声の中に、「公園が広すぎて、かえって顔なじみができにくい」「公園に行っても誰もいなくてつまらない」というものがありました。安全確保のため遊具の利用が禁止された結果、人が遠のき、草が生え茂った公園も目にします。しかしその一方で、地域に暮らす人々の力を生かすことで大勢の人々が集うようになった公園もあります。

今回の事業を通じて、私達は「いばらき」の可能性も感じることができました。「いばらき」にも、素晴らしい活動をすでに開始されている方々、自らもアクションを起こしたいという強い思いをもっている方々がたくさんいらっしゃいます。

次年度以降は、これまでの成果をもとに、「何ができるかを市民目線で話し合う」機会を設け、当初の目的である「みんなで考える いばらき教育プラン」の具現化につなげたいと考えます。

ヒアリングで聞かれた「いじめが不安」という声に対しては、「みんなで考える」ための場を設けるためにすでに具体的な計画を進めています。誰かに何かをしてもらうのを待つのではなく、一人ひとりがより主体的に子育てに関われるようにすること、たとえ一人ひとり立派ではなくとも、力は小さかったとしても、それぞれの立場から自分に何ができるかを考え、それが実践できる環境づくりこそが重要なのではないかと考えます。

ヒアリングやトークカフェについては、対象を未就学児だけでなく小学生の保護者にも広げ、継続したいと考えています。既参加者には、ヒアリングへの聞き役としての協力や、「子育てどう(Do)?」トークカフェの広報への協力を得るなど、これまでのつながりを大切にしながら、参加・活動の輪を広げる所存です。

また、母親サークルや地域で子育て支援に取り組む団体、新たに活動を始めようとしている団体とも協働し、情報発信やトークカフェの共同開催などを通じて、各地域における子育て・子育て環境の充実に努めたいと考えています。

最後に改めて、貴重なご助言をいただいたアドバイザーのお二人、ヒアリングにご協力いただいた皆様、情報発信にご協力いただいた皆様、そして助成をいただいた「生活協同組合パルシステム茨城」の皆様、その他様々な形でご協力をいただいた皆様に、スタッフ一同、心からのお礼を申し上げます。

2013年8月

子育てどう (Do)?プロジェクト運営委員会

松井 由佳・小野村 哲

子育てどう (Do) ?プロジェクト ～「子育てどう？」から広げる 共感と協働の輪～

企画・運営 : 子育てどう (Do) ?プロジェクト運営委員会

小野村 哲 (認定特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所)
松井 由佳 (認定特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所)
北村 直子 (認定特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所)
椎名 千春 (認定特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所)
大嶋 愛子 (認定特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所)

アドバイザー

池田 幸也 (常磐大学 教授)
横須賀 聡子 (認定特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場)

協力 : 認定特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場
ママとベビーの輪 代表 岡嶋 奈美子
産前・産後ケアサロン「ら・くな」院長 前島 朋子
美浦ファミリーサポートセンター サポーター 佐藤 十枝
特定非営利活動法人ポレポレ 事務局長 神谷 尚世
茨城大学教育学部情報文化課程3年 小野村 季子
藤平 理恵

活動報告対象期間 : 平成24年10月～平成25年8月

発行日 : 2013年8月30日

連絡先 : 認定特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所
〒305-0051 茨城県つくば市二の宮4-3-2 二の宮コーポC101
TEL 029-856-8143 FAX 029-896-4035
E-mail rise@cure.ocn.ne.jp
URL http://rise.gr.jp/net/kosodate_do